

製造現場における能力開発



森 美奈子

POINT

- ・アフターコロナでこれからの技能職に求められる能力は？
- ・保全職は製造現場のキーパーソンに

変化する世の中と 変わらないもの

1. 変わっていく時代

世の中の動きが速く、ますます先が読めない時代になっている。人生100年時代、終身雇用の崩壊、定年延長、ジョブ型雇用など、まさにVUCA（ブーカ）の時代(図1)で企業経営はますます不透明になってきた。それに加えて、これまでのような決まりきったキャリアコースがなくなる、仕事空間や多様な働き方が拡大するなど、働く環境も大きく変わってきている。そして、2020年に世の中を一変させた新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、われわれは生活様式や職場のあり方も変えざるを得なくなった。製造現場での働き方も同様である。

このような状況下で、個人のスキルアップやキャリアアップの必要性がますます強まると同時に、上司による部下育成もより重要となってくる。一方で、モノづくりにおける原点であり必要不可欠とされる三現主義(「現場」に行き、その場を知る/「現物」に触れ、モノを確認する/「現実」を見て、事実を知る)は、時代が変わっても本質的に変わらない部分もあるが、コロナ禍では難しくなっている現実がある。

本稿では、アフターコロナでの製造現場における技能職の育成やキャリアアップについて、「保全」という仕事を例に考えてみたい。

2. 保全業務とは何をする仕事か

製造現場では、さまざまな担当業務や役割がある。特に生産技術や保全は、製造ラインや設備を機能させるうえで欠かせない。生産技術は、工場

にある各設備の仕様を決定したり、設計を行う業務で、主に技術職(スタッフ)が担当することが多い。

それに対して保全は、工場の各種設備を維持・メンテナンスすることで、主に技能職(ライン)が担当する。設備の修理、改善により設備の寿命を伸ばし、製品の品質を維持する業務で、機械保全、電気保全、設備保全、金型保全、環境保全など、対応する機能や現場によって担当が分かれる。

保全業務の内容は、「保守・管理・点検」といわれる。具体的には、工場内を決められたルート・手順で巡回して、定期的に部品を交換したり、異常音を検知したり、設備内で決められた空調や温度を管理することが多い。特段トラブルが起らない場合は、工場内の巡回をしながら決められた定期点検や整備を行い、設備の監視を行うだけのルーティンワークに思われがちであるが、工場が安全品質効率を保ち、現場ラインが滞りなく稼働していくためには、なくてはならない“縁の下の力持ち”のような業務である。

設備保全で例を挙げるとするなら、「事後保全」「予防保全」「予知保全」の3つの方法が知られている(図2)。最初に「事後保全」は、設備装置・機器の停止や何らかのトラブルでパフォーマンスが低下した機械や設備について、原因を究明して対処する。その場で対処可能であれば、すぐに修理・補修し、場合によっては新しい部品を発注してトラブルに対処する。次に「予防保全」は、継続してかつ安定して設備や機械を稼働させるために、あらかじめ立てられた保全計画を基に点検・修理・部品の交換など、定期的にメンテナンスを行っていく。



図1 VUCA(ブーカ)の時代

これまでは…

現在は…

VUCAの時代

え～そんな無情な

新型コロナウイルスのまん延で働く環境変化

定年延長まだまだ働けるぞ

人生100年時代

在宅勤務で上司や同僚とコミュニケーションがとれていない

コロナ禍で難しい三現主義

V	Volatility (変動性)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界経済の変動やIT技術の進化、顧客ニーズの急速な変化で、産業モデルが移り変わる ・「これからどのような変化が起こっていくのか」が予測不可能な、変動が激しい状態
U	Uncertainty (不確実性)	<ul style="list-style-type: none"> ・AIやRPA*化により、これまでの仕事なくなる可能性がある。(*Robotic Process Automation) ・新型コロナウイルスの流行 ・地球温暖化による気候変動
C	Complexity (複雑性)	<ul style="list-style-type: none"> ・職場には多様な就業形態や人材が存在する ・育児、介護、病气との両立など働き方が多様化する ・十分なフォローがない部下は、すぐに辞めてしまう ・さまざまな要素・要因が複雑に絡み合っていて、単純な解決策を導き出すのが難しい
A	Ambiguity (あいまい性)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人材で、一律の管理では成り立たない ・先の読めない環境下で、従業員も不安を感じる ・対面でのコミュニケーションが希薄になっている ・絶対的な解決方法が見つからないあいまいな状態

図2 保全業務

